

令和元年度愛知県外来種調査結果の概要

1. 条例公表種等に関する情報収集

県内に生息生育する外来種（国外移入種及び国内移入種）のうち、県内の生態系に著しく影響を及ぼすおそれのある移入種（外来種）として「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」に基づき愛知県が公表する種、特定外来生物及び特に悪影響の懸念される外来種の中から以下の10種を選定し、主として既存資料調査（文献調査、標本調査）及びヒアリング調査により、生息生育情報等を収集・整理した。

- | | |
|------------------------------|--------|
| ① シマスズメノヒエ（イネ科） | 【新規作成】 |
| ② キシュウスズメノヒエ（チクゴスズメノヒエ）（イネ科） | 【加筆修正】 |
| ③ アメリカスズメノヒエ（イネ科） | 【新規作成】 |
| ④ ジグザグスズメノヒエ（イネ科） | 【新規作成】 |
| ⑤ タチスズメノヒエ（イネ科） | 【新規作成】 |
| ⑥ コバノセンダングサ（キク科） | 【新規作成】 |
| ⑦ アメリカセンダングサ（キク科） | 【加筆修正】 |
| ⑧ コセンダングサ（キク科） | 【加筆修正】 |
| ⑨ タチアワユキセンダングサ（キク科） | 【加筆修正】 |
| ⑩ オワリセンダングサ（キク科） | 【新規作成】 |

これらの調査結果について種ごとに整理を行い、「ブルーデータブックあいち 2012」に準じた1種あたり1頁（A4版）程度の概要を記載した文書を作成した。なお、「ブルーデータブックあいち 2012」にて既に文書が掲載されている種については、最新の情報に基づき文章を加筆修正し、該当箇所を赤字で示した。掲載されていない種については、新たに文書を作成した。

本資料では、10種のうち6種を例として掲載した。

【新規作成】

種子植物 <被子植物 単子葉類 イネ科> 総合対策
 SPERMATOPHYTA <MONOCOTYLEDONEAE POACEAE>

シマスズメノヒエ *Paspalum dilatatum* Poir.

【概要と選定理由】

1 年生草本。路傍や荒地、畑地、河川敷や土手に生育し、株立ちになる。ダリアグラスの名で、牧草としても用いられるが、国の総合対策外来生物とされている。

【形態】

茎は束生し、株立ちとなる。高さ 40~70cm の斜上する枝を放射状に出す。葉は線形、長さ 6~20cm、葉鞘は微毛をしくこともあるが口部以外は通常無毛である。花期は 6~10 月、花序は茎の片側に偏って開出する数本の総からなり、総は長さ 4~6cm で 2 列に小穂をつける。小穂は毛で被われる。

【分布の概要】

【世界の分布】
 原産地は北アメリカといわれるが、現在では世界の熱帯~暖帯に広く帰化している。
 【国内の分布】
 本州（関東地方）~九州。
 【県内の分布】
東：8 鳳来寺山（加藤等次 2250i,1992-10-17）、9 鳳来町黄柳野（小林元男 46202i, 1993-8-12）、12 新城市大原調整池（瀧崎 18233ti,2000-11-19）、13 豊川市八幡町（瀧崎 13480ti,1992-7-27）、14 蒲郡市水竹町（井上美保子 7i,1991-8-25）、15 豊橋市春日町（瀧崎 4586ti,1980-8-17）、16 豊橋市神野ふ頭町（瀧崎 13483ti,1992-7-28）、17 田原町芦村（小林元男 45126i,1993-7-10）、18 渥美町伊良湖岬（瀧崎 13915i,1992-10-10）。**西**：19 旭町若里（塚本威彦 781i,1993-8-28）、20 足助町追分（新井文子 1046i,1994-9-21）、21 豊田市下山代町（芹沢 93385i,2017-9-19）、22 小原村百月（日比野修 2375i,1994-7-18）、23 藤岡町北一色（日比野修 2675i,1994-10-14）、24 豊田市成合町（山田初代 849i,1991-8-2）、25 豊田市猿投町（磯貝彰宏 1849i,1984-10-17）、26 豊田市渡刈町（落合鈴枝 17i,1992-6-14）、27 三好町筋生（臼井里華 451i,1992-6-16）、28 額田町鹿勝川（福岡義洋 956i,1993-7-25）、29 岡崎市筒針町（中西普佐子 33i,1991-10-21）、30 岡崎市本宿町（芹沢 64119i,1992-10-7）、31 幸田町荻（金子律子 764i,1995-6-22）、32a 刈谷市井ヶ谷町（瀧崎 530ti,1978-9-18）、32b 知立市西町（芹沢 92496i,2017-6-14）、33 安城市西別所町（堀田喜久 92i,1991-5-25）、34a 高浜市芳川町（芹沢 92372i,2017-6-3）、34b 碧南市伏見屋外新田（芹沢 66760i,1993-8-5）、35 西尾市西奥田町（中村さとこ 495i,1993-7-4）、36 幡豆町東幡豆（壁谷重美子 682i,1994-7-8）。**尾**：37a 瀬戸市十軒町（日比野修 58i,1991-11-5）、37b 尾張旭市新居（瀧崎 29877iTi,2013-10-5）、38a 日進町岩崎（村瀬美智子 204i,1992-7-13）、39a 東郷町北山台（鬼頭弘 142i,1992-6-21）、40a 大府市桃山町（竹田弘光 34i,1992-8-13）、40b 東浦町生路（中村裕治 900i,1994-8-26）、41a 東海市加木屋町（加藤雅憲 1013i,1996-10-22）、42a 阿久比町草木（渡邊麻子 686i,1995-8-24）、42b 半田市行人町（岡本久美子 687i,2000-8-27）、42c 武豊町武豊（芹沢 68394i,1993-10-3）、43 常滑市常滑（芹沢 66405i,1993-7-4）、44a 美浜町布土（芹沢 61645i,1992-6-12）、44b 南知多町豊浜（大西博 728i,1992-7-13）、45 犬山市善師野（平嶋敏 722i,1989-7-8）、46a 扶桑町山那（上山秀郎 165i,1993-5-28）、46c 江南市古知野町（中西文治 381i,1980-8-7）、47 小牧市大山（瀧崎 27010Ti,2010-8-4）、48 春日井市細野町（芹沢 66369i,1993-6-25）、49a 岩倉市東新町（竹下希望 1011i,2010-8-8）、49c 師勝町熊之庄（鈴木幸子 79i,1992-6-10）、49d 新川町西堀江（芹沢 77909i,2002-7-21）、50 守山区小幡（福岡義洋 1996i,1992-10-2）、51 天白区八事（西川勇夫 91i,1992-6-4）、52 中村区城屋敷町（鶴岡佐知子 85i,1992-7-5）、54 一宮市奥町（芹沢 60199i,1991-9-6）、55 稲沢市高御堂町（岩田妙子 尾 1146i,1988-10-2）、56b 大治町三本木（芹沢 60872i,1991-10-19）、57b 佐屋町大野（山田茂貴 81i,1992-6-23）、58c 飛島村新政成（芹沢 93650i,2017-10-7）。

【生育地の環境／生態的特性】

畑地や荒地に普通に見られる。旺盛に種子繁殖をするが、バツカクキン的一种に罹患している個体群も蒲郡市などに見られる。タチスズメノヒエが侵入してくると、競争に負けて駆逐される。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○	○	○
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

ダリアグラスの名で牧草としても用いられるが、市街地の物の侵入経路はよくわからない。

【被害状況／駆除策と留意点】

在来種のスズメノヒエを駆逐して置き換わっている。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.171. 愛知県.
 大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.134. 名古屋営林局.

【関連文献】

北帰化 p.230, 平草 I p.98, 平帰化 p.285, 農教 I p.458.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

【加筆修正】

種子植物 <被子植物 単子葉類 イネ科> 総合対策
 SPERMATOPHYTA <MONOCOTYLEDONEAE POACEAE>

キシュウスズメノヒエ (チクゴスズメノヒエ) *Paspalum distichum* L.

【概要と選定理由】

多年生草本。ため池の岸、水路、水田などの水辺に生育し、長く匍匐茎を伸ばして水辺に密集した群落を作る。国の**総合対策外来生物**とされている。

【形態】

茎は束生し、下部は長く匍匐し、節から発根し、高さ 15~40cm の直立枝を出す。匍匐枝の節は有毛だが、直立枝の節は無毛になる。葉は線形、長さ 4~12cm、葉鞘口部以外は無毛である。花期は 6~10 月、花序は 2 本の総からなり、総は長さ 2~5cm で 2 列に小穂をつける。

【分布の概要】

【世界の分布】
 原産地は北アメリカといわれるが、現在では世界の熱帯~暖帯に広く帰化している。
 【国内の分布】
 本州（関東地方）~九州。
 【県内の分布】
東：12 新城市豊島(小林元男 65416i,1998-10-29)、13 一宮町（芹沢 52479i, 1989-7-31）、15 豊橋市下条東町(瀧崎 16963ti,1998-8-10)、16 豊橋市王ヶ崎町(瀧崎 14570ti, 1993-9-4)、17 田原町(瀧崎 9451i, 1987-7-5)、18 渥美町和地（小林元男 74222i, 2001-11-18）。**西**：豊田市旧市域東部（山崎玲子 261, 1992-9）、豊田市旧市域北西部（畑佐武司 4038, 2002-6）、豊田市旧市域南西部（落合鈴枝 354, 1993-8）、刈谷市（中村裕治 710, 1994-6）、安城市（堀田喜久 907, 1993-10）、碧南市（鈴木淳 10-8, 1990-10）、西尾市旧市域（芹沢 68677, 1993-10）。**尾**：日進市（半田多美子 1185, 1993-7）、東浦町（中村裕治 719, 1994-6）、東海市（加藤雅憲 778, 1996-9）、知多市（加藤雅憲 884, 1996-10）、阿久比町（渡邊麻子 985, 1995-10）、半田市（芹沢 68433, 1993-10）、常滑市（鳥居ちゑ子 2948, 2011-7）、南知多町（大西博 1165, 1992-9）、犬山市（竹下希望 553, 2010-6）、大口町（竹原芳子 1185, 1996-7）、岩倉市（芹沢 70724, 1994-9）、北名古屋市（水谷善彌 10649, 1992-9）、清須市（芹沢 77928, 2002-7）、名古屋市北部（鳥居ちゑ子 979, 1995-8）、名古屋市南東部（渡辺幸子 4503, 2000-9）、名古屋市南西部（鶴岡佐知子 154, 1992-9）、一宮市東部（佐分康之 1204, 1996-9）、一宮市西部（芹沢 60211, 1991-9）、稲沢市（岩田妙子 尾-1017, 1988-8）、大治町（芹沢 60176, 1991-9）、津島市（芹沢 49093, 1988-7）、蟹江町（永田晴美 609, 1994-7）、弥富市（畑佐武司 1479, 2000-8）。新城市旧市域（小林 2000）からも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

概要の項参照。匍匐茎の断片は容易に発根し、耕すほど群落が拡大する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

1924 年に和歌山県で採集された。大原（1971）の目録では産地として渥美があげられているだけで、その当時はまだあまり多い植物ではなかったと思われる。県内で普通に見られるようになったのは 1980 年頃からである。

【被害状況／駆除策と留意点】

水田の強害雑草となっているだけでなく、かつて普通種であった多くの在来水田雑草を圧迫している。一昔前はむしろ嫌われ者であったアシカキなどは、本種と競合するため、現在ではほとんど見られなくなっている。

【特記事項】

4 倍体のチクゴスズメノヒエ var. *indutum* Sinners は全体にやや大型で葉鞘や節に毛があり、東：豊川市（小林元男 57922, 1995-8）、西：豊田市南西部（落合鈴枝 593, 1994-9）、尾：長久手市（半田多美子 2197, 1996-8）、豊明市（浅野守彦 982, 2000-8）、大口町（竹下希望 1265, 2010-9）、岩倉市（芹沢 70725, 1994-9、名古屋市北部（鳥居ちゑ子 982, 1995-8）、名古屋市南東部（渡辺幸子 458, 1992-7）、名古屋市南西部（高木順夫 572, 1992-9）、一宮市東部（芹沢 70411, 1994-8）、一宮市西部（渡辺幸子 1860, 1994-9）、稲沢市（渡辺幸子 6275, 2011-7）、あま市（鈴木秀樹 3010, 1996-8）、大治町（芹沢 71177, 1994-10）、愛西市（芹沢 71287, 1994-10）、弥富市（竹原芳子 901, 1995-8）に生育している。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.171. 愛知県.
 大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.134. 名古屋営林局.

【関連文献】

北帰化 p.230, 平草 I p.98, 平帰化 p.285, 農教 I p.458.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

【新規作成】

種子植物 <被子植物 単子葉類 イネ科>
SPERMATOPHYTA <MONOCOTYLEDONEAE POACEAE>

産業管理

アメリカスズメノヒエ *Paspalum notatum* Flügge

【概要と選定理由】

多年生草本。路傍や荒地、畑地、河川敷や土手に生育し、地下茎を這わせて群落を作る。非常に強く根を張り、引き抜きにくい。バヒアグラスと呼ばれ、牧草や法面緑化材として用いられる。

【形態】

茎は短く匍匐する木質の地下茎から立ち上がり、ややまばらな群落を作る。高さ 20~60cm。葉は線形、長さ 5~20cm で中央脈でV字状に折れる。葉鞘は普通無毛。稀に毛がある。花期は7~10月。花序は茎頂にV字のように付く2本の総からなり、時にその下に1~2本の総が付くことがある。総は長さ4~6cmで2列に小穂をつける。小穂は縁を除き無毛で、表面に光沢がある。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は熱帯アメリカ。現在では世界の熱帯~暖帯に広く導入されたり帰化したりしている。

【国内の分布】

本州（関東地方）~九州。

【県内の分布】

東：8 新城市豊岡（瀧崎 27888Ti,2011-9-3）、12 新城市八束穂（瀧崎 31154Ti,2015-9-5）、13 豊川市 院之子（加藤等次 1885i,1992-9-7）、15 豊橋市岩崎町（瀧崎 10495i,1988-7-27）、16 豊橋市神野ふ頭町（瀧崎 15070i,981994-7-25）、18 渥美町石神（小林元男 47065i,1993-8-28）。西：20 足助町中立（山崎玲子 2051i,1999-7-17）、21 下山村平瀬（長谷川朋美 857i,1992-9-24）、22 小原村大平（鳥居ちゑ子 776i,1994-10-10）、24 豊田市御船町（佐藤久美子 611i,1993-7-23）、25 豊田市井上町（芹沢 68170i,1993-10-1）、26 豊田市渡刈町（落合鈴枝 330i,1993-7-23）、27 みよし市黒笹町（芹沢 93409i,2017-9-20）、28 額田町鳥川（福岡義洋 1092i,1990-8-9）、29 岡崎市康生町（瀧崎 33851Ti,2018-6-16）、32a 刈谷市小垣江町（益田千代子 814i,1993-8-6）、33 安城市村高町（堀田喜久 906i,1993-10-2）、34b 碧南市川口町（芹沢 67554i,1993-9-10）、36 幡豆町東幡豆（壁谷重美子 40i,1993-8-20）。尾：37a 瀬戸市上本町（五十嵐雅裕 88i,1992-8-7）、37b 尾張旭市新居（瀧崎 29878Ti,2013-10-5）、38a 長久手町長湫（半田多美子 495i,1992-8-26）、39a 東郷町諸輪（鬼頭弘 150i,1992-7-20）、42a 阿久比町宮津（渡邊麻子 1000i,1995-10-14）、42b 半田市岩滑西町（岡本久美子 548i,2000-7-15）、43 常滑市坂井（梅田零奈 523i,2000-7-7）、44a 美浜町古布（大西博 974i,1992-9-3）、44b 南知多町内海（芹沢 62128i,1992-7-23）、45 犬山市今井（芹沢 70934i,1994-9-20）、48 春日井市高蔵寺町（山田果与乃 1767i,2011-7-17）、49c 師勝町高田寺（鈴木幸子 521i,1993-8-4）、50 守山区天子田（鳥居ちゑ子 438i,1993-7-29）、51 緑区鳴海町（渡辺幸子 6883i,2014-7-2）、52 港区金城ふ頭（渡辺幸子 5939i,2007-10-3）、57b 佐屋町大野（山田茂貴 185i,1992-8-5）。

【生育地の環境/生態的特性】

畑地や荒地、路傍に普通に見られるようになった。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○	○	○
湿地				
水域				

【侵入の経緯/現在の生育状況】

国内への侵入は、牧草としての導入による。本州の関東以西に普通。牧草の他、法面緑化材としても利用されることがある。

【被害状況/駆除策と留意点】

畑地や公園などに侵入すると、木質化した地下茎が大変丈夫で、除去が困難である。

【特記事項】

コアメリカスズメノヒエ *Paspalum minus* E.Fourn.は全体に小型で、総が短く、小穂も小さく光沢が無い。長田武正が帰化植物図鑑で指摘しているとおり、区別は微妙である。

東：18 田原市中山町（瀧崎 28076i,2009-9-27）。

【関連文献】

北帰化 p.230, 平草 I p.98, 平帰化 p.285, 農教 I p.458.
Flora of North America, Flora of China, Flora of Australia

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

【新規作成】

種子植物 <被子植物 単子葉類 イネ科>
SPERMATOPHYTA <MONOCOTYLEDONEAE POACEAE>

ジグザグスズメノヒエ *Paspalum setaceum* Michx. var. *supinum* (Bosc. ex Poir.) Trin.

【概要と選定理由】

多年生草本。名古屋港の金城ふ頭にのみ知られる。アスファルト舗装の歩道や植栽用に切られた花壇に、路面間隙雑草的な生態を示す。

【形態】

茎も葉も短く匍匐する地下茎から横に這い広がり、べったりと地面につく。花穂はスズメノヒエ属としては細く、茎頂近くに数本出て、穂の軸に交互に2列の小穂をつける。そのため、小穂が脱落した後の穂の軸が、ジグザグと曲がって見えることから和名を与えた。



【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は南アメリカ、現在ではオセアニアを除く世界の熱帯~暖帯に広く帰化している。

【国内の分布】

本州（愛知県名古屋市港区金城ふ頭）。母変種 var. *setaceum* は東北地方から報告されており、植物体は地面に這わず、直立~斜上する。

【県内の分布】

尾：52 名古屋市港区金城ふ頭（芹沢 85117i,2009-10-3）。

【生育地の環境/生態的特性】

名古屋港金城ふ頭の東海環状道にほど近いアスファルト舗装された歩道に、路面間隙的生態を見せる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩			○	○
湿地				
水域				

【侵入の経緯/現在の生育状況】

侵入経路は不明だが、他の場所からは報告が無く、一時帰化的な状況かもしれない。

【被害状況/駆除策と留意点】

取り立てて被害は起きていない。

【関連文献】

北帰化 p.230, 平草 I p.98, 平帰化 p.285, 農教 I p.458.
Flora of North America

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

【新規修正】

種子植物 <被子植物 単子葉類 イネ科>
SPERMATOPHYTA <MONOCOTYLEDONEAE POACEAE>

総合対策

タチスズメノヒエ *Paspalum urvillei* Steud.

【概要と選定理由】

多年生草本。路傍や荒地、畑地、河川敷や土手に生育し、地下茎を這わせて面的な密生群落を作る。他の植物の侵入を許さない。茎の基部に針状の剛毛が密生し、引き抜こうとすると手指を痛めることがある。英名はヴァシーグラス Vasey grass。牧草にされることもある。

【形態】

茎は短く匍匐する地下茎から立ち上がり、密生する群落を作る。高さ 70~150cm。葉は線形、長さ 10~40cm、葉鞘の下部には針状の剛毛が密生する。花期は 7~10 月、花序は茎の片側に偏って斜上する 10~20 本の総からなり、総は長さ 4~6cm で 2 列に小穂をつける。小穂は毛で被われる。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は南アメリカ、現在ではオセアニアを除く世界の熱帯~暖帯に広く帰化している。

【国内の分布】

本州（関東地方）~九州。

【県内の分布】

東：8 新城市玖老勢（瀧崎 24499ti,2008-8-24）、9 鳳来町乗本（小林元男 49304i,1993-11-3）、10 鳳来町一色（芹沢 70491i,1994-8-28）、12 新城市富岡（芹沢 64140i,1992-10-7）、13 御津町豊沢（瀧崎 17007ti,1998-8-25）、14 蒲郡市浜町（瀧崎 32136Ti,2016-10-1）、15 豊橋市石巻萩平町（芹沢 64465i,1992-10-27）、16 豊橋市明海町（瀧崎 16647ti,1997-10-13）、17 田原市西神戸町（瀧崎 23227ti,2007-8-1）、18 田原市日出町（瀧崎 24368ti,2008-8-9）。西：19 旭町西小柳（塚本威彦 841i,1993-10-3）、20 足助町足助（新井文子 1082i,1994-9-23）、22 小原村樽俣（日比野修 2602i,1994-9-12）、24 豊田市扶桑町（畑佐 4655ti,2002-8-8）、25 豊田市篠原町（芹沢 60074i,1991-8-28）、26 豊田市西岡町（芹沢 71386i,1994-10-28）、27 三好町筋生（臼井里華 691i,1992-8-23）、29 岡崎市茅原沢町（伊奈知子 543i,1993-7-23）、31 幸田町坂崎（金子律子 1603i,1995-10-23）、32a 刈谷市井ヶ谷町（芹沢 68261i,1993-10-1）、33 安城市小川町（堀田喜久 870i,1993-10-2）、34b 碧南市前浜町（芹沢 66745i,1993-8-5）、35 西尾市米津町（堀田喜久 1866i,1992-8-12）、36 幡豆町東幡豆（瀧崎 17547ti,1999-9-26）。尾：37a 瀬戸市水北町（芹沢 56101i,1990-7-30）、37b 尾張旭市新居（瀧崎 29879Ti,2013-10-5）、38a 長久手町岩作（半田多美子 830i,1992-10-11）、38b 日進町本郷（芹沢 63959i,1992-9-30）、39a 東郷町諸輪（鬼頭弘 238i,1992-10-11）、40a 大府市長草町（辻宏美 1015i,1990-10-27）、40b 東浦町生路（中村裕治 732i,1994-6-30）、41b 知多市大草（鳥居ちゑ子 3010Ti,2011-10-25）、42c 武豊町下山ノ田（岡本久美子 702i,2000-8-30）、43 常滑市久米（梅田零奈 845i,2000-10-2）、44a 美浜町野間（瀧崎 28892Ti,2012-11-3）、46b 大口町河北（竹原芳子 1270i,1996-9-3）、46c 江南市北野町（竹下希望 796i,2010-7-12）、48 春日井市気噴町（太田さち子 253i,1993-7-4）、49a 岩倉市北島町（芹沢 72509i,1994-10-17）、49c 師勝町六ツ師（鈴木幸子 174i,1992-8-10）、49d 新川町下河原（芹沢 64348i,1992-10-21）、50 守山区天子田（鳥居ちゑ子 200i,1992-10-4）、51 天白区御前場町（中島ひろみ 176i,1992-7-20）、52 中川区富田町（芹沢 60839i,1991-10-16）、54 尾西市起（芹沢 60193i,1991-9-6）、55 平和町西光坊（家田晴俊 291i,1994-10-15）、56b 大治町三本木（芹沢 60871i,1991-10-19）、57b 立田村福原（山田茂貴 817i,1993-10-2）。

【生育地の環境／生態的特性】

畑地や荒地、路傍に普通に見られる。種子繁殖もするが、短い地下茎を這わせ密生する群落を形成して、他の植物の生育を著しく阻害する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○	○	○
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

国内への侵入は、戦後北九州からとされる。本州の関東以西に普通。国内では牧草としてはあまり利用されていない。

【被害状況／駆除策と留意点】

河川の堤防土手に侵入すると、在来種のススキを駆逐する。

【関連文献】

北帰化 p.230、平草 I p.98、平帰化 p.285、農教 I p.458。
Flora of North America, Flora of China, Flora of New Zealand, Flora of Australia

（瀧崎吉伸・芹沢俊介）

【加筆修正】

種子植物 <被子植物 真性双子葉類 キク科>
SPERMATOPHYTA <DICOTYLEDONEAE ASTERACEAE>

総合対策

アメリカセンダングサ *Bidens frondosa* L.

【概要と選定理由】

1 年生草本。果実は扁平な長卵形で 2 本の棘があり、衣服にひっついて運ばれる、いわゆるひっつき虫。同属の種群の中では、より早く国内に広く帰化した。現在は遅れて帰化したコセンダングサ *B. pilosa* L.によりニッチを奪われ、水辺の環境に追いやられている。

【形態】

直立する茎を 1 本立ち上げ、上部に枝を対生させる。茎は一般的に赤紫色を帯びる。茎も枝も断面は四角形で、4 稜がある。葉は対生し羽状に深裂する。荒い鋸歯が有る。頭花にはよく目立つ苞葉がつき、舌状花は無い。

【分布の概要】

【世界の分布】

アメリカ大陸原産。ほぼ全世界に帰化している。

【国内の分布】

北海道・本州・四国・九州。

【県内の分布】

東：3 東栄町下田（瀧崎 25952ti,2009-9-21）、4 設楽町津具水梨川（瀧崎 23592ti,2007-10-9）、7 設楽町平山（榑原利修 1309i,1992-9-25）、8 鳳来町長篠（加藤等次 2157i,1992-10-10）、11 新城市作手田原（瀧崎 28823Ti,2012-9-22）、12 新城市豊島（加藤等次 3863i,1993-9-28）、13 豊川市御油町（瀧崎 14711ti,1993-10-3）、14 蒲郡市相楽町（鈴木美恵子 235i,1992-9-13）、15 豊橋市嵩山町（芹沢・芳山朋子 216i,1984-10-10）、16 豊橋市西赤沢町（瀧崎 30025Ti,2013-10-13）、17 田原市浦町（瀧崎 23414ti,2007-9-17）、18 田原市堀切町（瀧崎 27931Ti,2011-9-24）。西：5 稲武町面ノ木峠（鈴木学 9i,1982-9-25）、19 旭町坪崎（芹沢 63174i,1992-9-8）、20 足助町寧比曾岳（水野岸子 843i,1985-10-9）、21 下山村東大沼（長谷川朋美 1034i,1992-10-22）、22 小原村平畑（塚本威彦 1367i,1994-9-12）、23 藤岡町西中山（日比野修 893i,1992-9-30）、24 豊田市幸海町（山田初代 1197i,1991-9-20）、25 豊田市猿投町（磯貝彰宏 343i,1983-9-23）、26 豊田市渡刈町（落合鈴枝 467i,1993-10-2）、27 三好町黒笹（臼井里華 842i,1992-9-20）、28 額田町牧平（福岡義洋 1424i,1990-9-21）、29 岡崎市茅原沢町（伊奈知子 921i,1993-9-24）、30 岡崎市竜泉寺町（本多さおり 827i,1994-9-22）、31 幸田町坂崎（金子律子 1292i,1995-9-27）、32a 刈谷市井ヶ谷町（鈴木学 2276i,1983-9-17）、33 安城市西別所町（堀田喜久 3017i,1991-10-5）、34b 碧南市川口町（中村さとし 741i,1993-9-10）、35 西尾市西浅井町（芹沢 68454i,1993-10-4）、36 幡豆町鳥羽（芹沢 68728i,1993-10-13）。尾：38a 長久手町長湫（半田多美子 2i,1991-10-30）、38b 日進町米野木（伊藤恭子 642i,1992-9-25）、39a 東郷町諸輪（鬼頭弘 246i,1992-10-18）、40b 東浦町緒川（渡邊麻子 1002i,1995-10-14）、41b 知多市佐布里（加藤雅憲 1379i,1997-9-26）、42a 阿久比町植大（渡邊麻子 838i,1995-9-28）、42b 半田市砂谷町（岡本久美子 791i,2000-9-24）、43 常滑市北条（芹沢 65071i,1993-5-16）、44a 美浜町奥田（岡島沙矢香 478i,2001-9-13）、44b 南知多町片名（大西博 1086i,1992-9-17）、45 犬山市本宮山（松田ちか子 889i,1986-9-20）、46c 江南市木賀町（竹下希望 1380i,2010-9-24）、47 小牧市大山（村瀬正成 930603i,1993-9-11）、48 春日井市玉野町（太田さち子 849i,1993-9-25）、49a 岩倉市川井町（水谷善彌 10673i,1992-9-22）、50 守山区小幡（福岡義洋 2130i,1992-10-30）、51 天白区植田（渡辺幸子 663i,1992-9-18）、52 中村区域屋敷町（鶴岡佐知子 199i,1992-10-16）、54 尾西市開明（渡辺幸子 778i,1992-10-20）、56b 大治町八ツ屋（芹沢 73299i,1996-10-1）、57b 佐屋町大野（山田茂貴 291i,1992-10-6）、77c 飛島村新政成（高木順夫 21515Ti,2012-11-1）。

【生育地の環境／生態的特性】

休耕田や水路、ため池の縁など、水辺の環境に多く見られる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○	○	○
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

侵入経路は不明だが、ひっつき虫なので物流や人の移動に伴って侵入した物と思われる。コセンダングサより早く侵入し、優先したが、現在はコセンダングサにニッチを奪われ、湿地に多く残っている。

【被害状況／駆除策と留意点】

休耕田などに多く生育している。種子が衣服にひっつくので、除去する際に注意する。

【特記事項】

似た種にコセンダングサ、オワリセンダングサ、在来種のタウコギなどがある。

（瀧崎吉伸・芹沢俊介）

2. 県内における外来種の基礎情報整理

(1) 外来種リスト(暫定版)【植物】

表-1 外来種リスト(暫定版)【植物】(その1)

No.	大分類群	科名	和名	移入の区分		他指定区分				備考
				国外	国内	県条例公表種	特定外来生物	外来種リスト	日本ワースト100	
1	セン類	センボンゴケ	コモチネジレゴケ	○						
2	タイ類	ウキゴケ	ウロコハタケゴケ	○				総合		
3	タイ類	ミカツキゼニゴケ	ミカツキゼニゴケ	○				総合		
4	小葉	イワヒバ	イヌカタヒバ	○						
5	小葉	イワヒバ	コンテリクラマゴケ	○				総合		
6	シダ	マツバラ	マツバラ		○					在来個体群もある
7	シダ	トクサ	トクサ		○					在来個体群があるかもしれない
8	シダ	トクサ	オオトクサ	○						
9	シダ	サンショウモ	ニシノオオアカウキクサ	○				緊急		
10	シダ	サンショウモ	アイオオアカウキクサ	○				○ 緊急		
11	シダ	サンショウモ	オオサンショウモ	○				重点	○	
12	シダ	イノモトソウ	ホウライシダ		○					
13	シダ	イノモトソウ	コバホウライシダ	○						
14	シダ	イノモトソウ	モエジマシダ	○						
15	シダ	オシダ	ハガクレカナワラビ	○						
16	シダ	オシダ	チリメンシダ							
17	シダ	タマシダ	タマシダ		○					
18	シダ	シノブ	アツバシノブ	○						
19	裸子	イチヨウ	イチヨウ	○						
20	裸子	マツ	カラマツ		○					
21	裸子	マツ	イラモミ		○					
22	裸子	マツ	リキダマツ	○						
23	裸子	マツ	テーダマツ	○						
24	裸子	マツ	クロマツ		○					逸出個体群もある
25	裸子	マツ	アイグロマツ	○						
26	裸子	マキ	ナギ	○						
27	裸子	ヒノキ	ヒノキ		○					在来個体群もある
28	裸子	ヒノキ	オウゴンシノビハ							
29	裸子	ヒノキ	スギ		○					
30	裸子	ヒノキ	コウヨウザン	○						
31	裸子	ヒノキ	メタセコイア	○						
32	裸子	ヒノキ	ヌマスギ	○						
33	裸子	ヒノキ	タチラクウショウ	○						
34	裸子	ヒノキ	アスナロ		○					
35	裸子	イチイ	イチイ	○						逸出個体群もある
36	裸子	イチイ	キヤラボク	○						
37	裸子	イチイ	カヤ							
38	原始被子	ジュサイ	フサジュンサイ	○		○		重点		県条例ではハゴロモとして公表
39	原始被子	スイレン	セイヨウスイレン	○		○		重点		県条例ではスイレン属として公表
40	原始被子	ウマノズクス	ミヤコアオイ		○					
41	原始被子	モクレン	ユリノキ	○						
42	原始被子	モクレン	キモクレン	○						
43	原始被子	モクレン	カラタネオガタマ	○						
44	原始被子	モクレン	オガタマノキ							
45	原始被子	モクレン	コブシ		○					一部在来?
46	原始被子	モクレン	シデコブシ		○					一部のみ逸出
47	原始被子	モクレン	コブシ×シデコブシ		○					
48	原始被子	ハンレイシ	ポポー	○						
49	原始被子	ロウバイ	ロウバイ	○						
50	原始被子	クスノキ	クスノキ	○						
51	原始被子	クスノキ	ニッケイ		○					RDBあいち2020 p.671参照
52	原始被子	クスノキ	グツケイジュ	○						
53	原始被子	クスノキ	テンダイウヤク	○						
54	原始被子	クスノキ	アオモジ		○					
55	単子葉	ショウブ	ショウブ		○					
56	単子葉	ショウブ	アリスガワセキショウ		○					
57	単子葉	サトイモ	コンニャク							
58	単子葉	サトイモ	サトイモ	○						
59	単子葉	サトイモ	アオウキクサ		○					逸出個体群もある
60	単子葉	サトイモ	ヒメウキクサ							
61	単子葉	サトイモ	ヒナウキクサ	○						
62	単子葉	サトイモ	ミズバショウ		○					
63	単子葉	サトイモ	オオハンゲ		○					
64	単子葉	サトイモ	ボタンウキクサ	○				○ 緊急	○	
65	単子葉	サトイモ	ミジンコウキクサ	○						
66	単子葉	オモダカ	サジオモダカ		○					
67	単子葉	オモダカ	ミズヒナゲシ	○						
68	単子葉	オモダカ	ナガバオモダカ	○				重点		
69	単子葉	オモダカ	クワイ							
70	単子葉	トチカガミ	セトヤナギスブタ		○					在来個体群もある

※表中の灰色枠は本調査において生息生育情報等を収集・整理し、1種1頁の解説文を作成または加筆修正した種を示す。

注1: 科の配列は原則としてAPG分類系(APG III)に従った。科内の種の配列は学名のアルファベット順とした。また、動物で表記されている目名と属名は省略し、それに代えてAPG分類系による大分類群を併記した。
 注2: APG分類系大分類群 小葉:小葉植物、シダ:大葉シダ植物、裸子:裸子植物、原始被子:原始被子植物、単子葉:単子葉類、双子葉:真正双子葉類。
 注3: 「外来種リスト」は「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」を示す(予防:定着予防外来種、緊急:緊急対策外来種、重点:重点対策外来種、総合:その他の総合対策外来種、産業:産業管理外来種)。
 注4: 移入の区分(移入元) 国外、国外のどちらにも○が付されていないものは、移入種間、または移入種と在来種の間形成された自然雑種である。あるいは移入個体群が国内由来か国外由来か不明なものである。

表-1 外来種リスト(暫定版)【植物】(その2)

No.	大分類群	科名	和名	移入の区分		他指定区分				備考
				国外	国内	県条例公表種	特定外来生物	外来種リスト	日本ワースト100	
211	単子葉	イネ	ホウライチク	○						
212	単子葉	イネ	ホウオウチク	○						
213	単子葉	イネ	コバンソウ	○						
214	単子葉	イネ	ヒメコバンソウ	○						
215	単子葉	イネ	イヌムギ	○						
216	単子葉	イネ	ムクゲチャヒキ	○						
217	単子葉	イネ	ヒゲナガスズメノチャヒキ	○						
218	単子葉	イネ	ハマチャヒキ	○						
219	単子葉	イネ	コスズメノチャヒキ	○						
220	単子葉	イネ	チャボチャヒキ	○						
221	単子葉	イネ	カラスノチャヒキ	○						
222	単子葉	イネ	アレチノチャヒキ	○						
223	単子葉	イネ	ウマノチャヒキ	○						
224	単子葉	イネ	チゴカンテク	○						
225	単子葉	イネ	シボウチク	○						
226	単子葉	イネ	ヒメヒゲシバ	○						
227	単子葉	イネ	アフリカヒゲシバ	○						
228	単子葉	イネ	オヒゲシバ	○						
229	単子葉	イネ	ジュズダマ	○						
230	単子葉	イネ	シロガネヨシ	○			総合			
231	単子葉	イネ	ヒゲガヤ	○						
232	単子葉	イネ	カモガヤ	○			産業	○		
233	単子葉	イネ	タノツメガヤ	○						
234	単子葉	イネ	カタボウシノケグサ	○						
235	単子葉	イネ	ニコゲヌカキビ	○						
236	単子葉	イネ	ホノヌカキビ	○						
237	単子葉	イネ	ヒロハニコゲヌカキビ	○						
238	単子葉	イネ	キタメヌカキビ	○						
239	単子葉	イネ	ホウキヌカキビ	○						
240	単子葉	イネ	ヒメケヌカキビ	○						
241	単子葉	イネ	ヒメオニササガヤ	○						
242	単子葉	イネ	シラゲオニササガヤ	○						
243	単子葉	イネ	キタメヒシバ	○						
244	単子葉	イネ	ハキダメガヤ	○						
245	単子葉	イネ	ヒエ	○						
246	単子葉	イネ	シバムギ	○						
247	単子葉	イネ	ノゲシバムギ	○						
248	単子葉	イネ	イトスズメガヤ	○						
249	単子葉	イネ	スズメガヤ	○						
250	単子葉	イネ	シナダレスズメガヤ	○			重点	○		
251	単子葉	イネ	コゴメカゼクサ	○						
252	単子葉	イネ	コスメガヤ	○						
253	単子葉	イネ	ニワホコリ	○						
254	単子葉	イネ	オオニワホコリ	○						
255	単子葉	イネ	キノガワニワホコリ	○						
256	単子葉	イネ	オオキノガワニワホコリ	○						
257	単子葉	イネ	ナゴヤニワホコリ	○						
258	単子葉	イネ	トコナメニワホコリ	○						
259	単子葉	イネ	アツミニワホコリ	○						
260	単子葉	イネ	ホノスズメガヤ	○						
261	単子葉	イネ	チャボウシノシツペイ	○						
262	単子葉	イネ	ヨシススキ	○			重点			
263	単子葉	イネ	シロタカオススキ	○						
264	単子葉	イネ	ウスゲナルコビエ	○						
265	単子葉	イネ	ヒメナルコビエ	○						
266	単子葉	イネ	ハガワリトボシガラ	○						
267	単子葉	イネ	ウシノケグサ	○						
268	単子葉	イネ	ヒロハウシノケグサ	○						
269	単子葉	イネ	オオウシノケグサ	○						
270	単子葉	イネ	セイヨウウキガヤ	○						
271	単子葉	イネ	シラゲガヤ	○						
272	単子葉	イネ	ニセシラゲガヤ	○						
273	単子葉	イネ	ムギクサ	○						
274	単子葉	イネ	オオムギ	○						
275	単子葉	イネ	ケナシチガヤ	○						○
276	単子葉	イネ	ミノボロ	○						
277	単子葉	イネ	ハマガヤ	○						
278	単子葉	イネ	ニセアゼガヤ	○						
279	単子葉	イネ	ホウキアゼガヤ	○						
280	単子葉	イネ	オニウシノケグサ	○			産業	○		
281	単子葉	イネ	オウシュウトボシガラ	○			産業			
282	単子葉	イネ	ネズミムギ	○			産業			
283	単子葉	イネ	ホソムギ	○			産業			
284	単子葉	イネ	ヒロハウシノケグサ	○						
285	単子葉	イネ	ボウムギ	○			産業			
286	単子葉	イネ	ネズミホソムギ	○			産業			
287	単子葉	イネ	ボウホソムギ	○			産業			
288	単子葉	イネ	タカノハススキ	○						
289	単子葉	イネ	オギススキ	○						逸出個体群もある
290	単子葉	イネ	イネ	○						
291	単子葉	イネ	ハナクサキビ	○						
292	単子葉	イネ	オオクサキビ	○			総合			
293	単子葉	イネ	キビ	○						
294	単子葉	イネ	スズメノナギナタ	○						
295	単子葉	イネ	シマスズメノヒエ	○			総合			
296	単子葉	イネ	キシウスズメノヒエ	○			総合			
297	単子葉	イネ	チクゴスズメノヒエ	○			重点			
298	単子葉	イネ	コアカスズメノヒエ	○						
299	単子葉	イネ	アメリカスズメノヒエ	○			産業			
300	単子葉	イネ	ジグザグスズメノヒエ	○						
301	単子葉	イネ	タチスズメノヒエ	○			総合			
302	単子葉	イネ	オニクサヨシ	○						
303	単子葉	イネ	シマヨシ	○						
304	単子葉	イネ	カナリークサヨシ	○						
305	単子葉	イネ	ヒメカナリークサヨシ	○						
306	単子葉	イネ	オオアワガエリ	○			産業			
307	単子葉	イネ	ホテイチク	○			産業			
308	単子葉	イネ	モウソウチク	○			産業			
309	単子葉	イネ	クロチク	○			産業			
310	単子葉	イネ	ハチク	○						逸出個体群もある
311	単子葉	イネ	マダケ	○			産業			
312	単子葉	イネ	カンザンチク	○						
313	単子葉	イネ	アオスズメノカタビラ	○						
314	単子葉	イネ	コイチゴツナギ	○						
315	単子葉	イネ	ツクシスズメノカタビラ	○						
316	単子葉	イネ	ナガハグサ	○						
317	単子葉	イネ	オオスズメノカタビラ	○						
318	単子葉	イネ	ヤダケ	○						
319	単子葉	イネ	ミノボロモドキ	○						
320	単子葉	イネ	ツノアイアシ	○						
321	単子葉	イネ	チマキザサ	○						在来個体群もある
322	単子葉	イネ	クマザサ	○						
323	単子葉	イネ	ライムギ	○						
324	単子葉	イネ	ナリヒラダケ	○						
325	単子葉	イネ	アワ	○						
326	単子葉	イネ	ホナガキンエノコロ	○						
327	単子葉	イネ	フシネキンエノコロ	○						
328	単子葉	イネ	オオエノコロ	○						
329	単子葉	イネ	ニセオオエノコロ	○						
330	単子葉	イネ	ムラサキニセオオエノコロ	○						
331	単子葉	イネ	オカメザサ	○						
332	単子葉	イネ	トウチク	○						
333	単子葉	イネ	スズコナリヒラ	○						
334	単子葉	イネ	セイバンモロコシ	○			総合			
335	単子葉	イネ	ヒメモロコシ	○			総合			
336	単子葉	イネ	コウリヤン	○						
337	単子葉	イネ	ヒガタアシ	○			○ 緊急			
338	単子葉	イネ	コヒガタアシ	○			○ 緊急			
339	単子葉	イネ	イヌシバ	○						
340	単子葉	イネ	コムギ	○						
341	単子葉	イネ	イヌナギナタガヤ	○						
342	単子葉	イネ	ナギナタガヤ	○			産業			
343	単子葉	イネ	オオナギナタガヤ	○			産業			
344	単子葉	イネ	ムラサキナギナタガヤ	○						
345	単子葉	イネ	コウライシバ	○						
346	単子葉	マツモ	マツモ	○						逸出個体群もある
347	双子葉	フサザクラ	フサザクラ	○						
348	双子葉	フサザクラ	ウラジロフサザクラ	○						
349	双子葉	ケシ	アザミゲシ	○						
350	双子葉	ケシ	シラユキゲシ	○						
351	双子葉	ケシ	ハナビシソウ	○						
352	双子葉	ケシ	セイヨウエンゴサク	○						
353	双子葉	ケシ	モンツキヒナゲシ	○						
354	双子葉	ケシ	ナガミヒナゲシ	○						
355	双子葉	ケシ	シロバナナガミヒナゲシ	○						
356	双子葉	ケシ	オニゲシ	○						
357	双子葉	ケシ	ヒナゲシ	○						
358	双子葉	ケシ	アツミゲシ	○						総合
359	双子葉	メギ	ホソバヒラギナンテン	○						
360	双子葉	メギ	ヒラギナンテン	○						総合
361	双子葉	メギ	ホザキノイカリソウ	○						
362	双子葉	メギ	ナンテン	○						一部在来?
363	双子葉	キンボウゲ	フクジュソウ	○						
364	双子葉	キンボウゲ	シユウメイギク	○						
365	双子葉	キンボウゲ	キクザキイチゲ	○						逸出個体群もある
366	双子葉	キンボウゲ	セイヨウオダマキ	○						
367	双子葉	キンボウゲ	エノコウソウ	○						逸出個体群もある
368	双子葉	キンボウゲ	カザグルマ	○						
369	双子葉	キンボウゲ	ヒエンソウ	○						
370	双子葉	キンボウゲ	ヒメユウキンカ	○						
371	双子葉	キンボウゲ	クロタネソウ	○						
372	双子葉	キンボウゲ	ウマノアシガタ	○						逸出個体群もある
373	双子葉	キンボウゲ	トゲミノキツネノボタン	○						
374	双子葉	キンボウゲ	ハイキンボウゲ	○						
375	双子葉	キンボウゲ	イボキンボウゲ	○						
376	双子葉	ハス	ハス	○						○?
377	双子葉	スズカケノキ	アメリカスズカケノキ	○						
378	双子葉	ツゲ	フッキソウ	○						
379	双子葉	フウ	モミジバフウ	○						
380	双子葉	マンサク	イスノキ	○						
381	双子葉	マンサク	ホソバイスノキ	○						
382	双子葉	カツラ	カツラ	○						在来個体群もある
383	双子葉	ユズリハ	ユズリハ	○						
384	双子葉	ユズリハ	アオジクユズリハ	○						
38										

表-1 外来種リスト(暫定版)【植物】(その3)

No.	大分類群	科名	和名	移入の区分		他指定区分				備考
				国外	国内	県条例公表種	特定外来生物	外来種リスト	日本ワースト100	
421	双子葉	マメ	フジマメ	○						
422	双子葉	マメ	ヒロハレンリソウ	○						
423	双子葉	マメ	エゾレンリソウ		○					
424	双子葉	マメ	レンリソウ							
425	双子葉	マメ	マルバレンリソウ	○						
426	双子葉	マメ	ヤマハギ系							中国産ヤマハギ系交雑種?
427	双子葉	マメ	ヤマハギ(移入型)	○						
428	双子葉	マメ	ハイメドハギ							
429	双子葉	マメ	ナガバメドハギ	○						
430	双子葉	マメ	オオバメドハギ	○						
431	双子葉	マメ	オクシモハギ	○						
432	双子葉	マメ	トウクサハギ	○						
433	双子葉	マメ	カラメドハギ	○						
434	双子葉	マメ	シベリアメドハギ							
435	双子葉	マメ	アカバナメドハギ	○						
436	双子葉	マメ	チョウセンキハギ	○						
437	双子葉	マメ	ミヤギノハギ		○					
438	双子葉	マメ	ニシキハギ		○					
439	双子葉	マメ	シラハギ		○					
440	双子葉	マメ	ケハギ		○					
441	双子葉	マメ	ヤマハギ×ニシキハギ		○					
442	双子葉	マメ	マルバハギ×ニシキハギ		○					
443	双子葉	マメ	ハイメドハギ×ネコハギ							
444	双子葉	マメ	オクシモハギ×ニシキハギ		○					
445	双子葉	マメ	オクシモハギ×ビツチュウヤマハギ							
446	双子葉	マメ	オクシモハギ×?							
447	双子葉	マメ	セイヨウミヤコグサ		○					
448	双子葉	マメ	ネビキミヤコグサ		○					
449	双子葉	マメ	イヌエンジュ		○					
450	双子葉	マメ	モンツクウマゴヤシ		○					
451	双子葉	マメ	コメツブウマゴヤシ		○					
452	双子葉	マメ	ネバニコメツブウマゴヤシ		○					
453	双子葉	マメ	コウマゴヤシ		○					
454	双子葉	マメ	ウマゴヤシ		○					
455	双子葉	マメ	ムラサキウマゴヤシ		○					
456	双子葉	マメ	シロバナムラサキウマゴヤシ							
457	双子葉	マメ	ウズマキウマゴヤシ		○					
458	双子葉	マメ	コンナガワハギ		○					
459	双子葉	マメ	シロバナシナガワハギ		○					
460	双子葉	マメ	シナガワハギ		○					
461	双子葉	マメ	オジギソウ		○					
462	双子葉	マメ	エンドウ							
463	双子葉	マメ	ハリエンジュ		○					産業 ○
464	双子葉	マメ	トゲナシハリエンジュ		○					
465	双子葉	マメ	エビスグサ		○					
466	双子葉	マメ	ハブソウ		○					
467	双子葉	マメ	アメリカツメクサ		○					
468	双子葉	マメ	シバネム		○					
469	双子葉	マメ	センダイハギ		○					
470	双子葉	マメ	トガリバツメクサ		○					
471	双子葉	マメ	シヤクマハギ		○					
472	双子葉	マメ	クスダマツメクサ		○					
473	双子葉	マメ	コメツブツメクサ		○					
474	双子葉	マメ	ツメクサダマシ		○					
475	双子葉	マメ	ダンゴツメクサ		○					
476	双子葉	マメ	タチオランダゲンゲ		○					
477	双子葉	マメ	ベニバナツメクサ		○					
478	双子葉	マメ	オオバアカツメクサ		○					
479	双子葉	マメ	ムラサキツメクサ		○					
480	双子葉	マメ	セツクツメクサ		○					
481	双子葉	マメ	シロツメクサ		○					
482	双子葉	マメ	モモイロツメクサ		○					
483	双子葉	マメ	ヒナツメクサ		○					
484	双子葉	マメ	オオヤハズエンドウ		○					
485	双子葉	マメ	ホソバヤハズエンドウ		○					
486	双子葉	マメ	ビロードクサフジ		○					産業
487	双子葉	マメ	ナヨクサフジ		○					産業
488	双子葉	マメ	シロバナナヨクサフジ		○					産業
489	双子葉	マメ	ナガバハマササゲ		○					
490	双子葉	マメ	ササゲ		○					
491	双子葉	マメ	ヤマフジ		○					
492	双子葉	マメ	シラフジ		○					
493	双子葉	バラ	セイヨウハゴロモグサ		○					
494	双子葉	バラ	イワムシロ							
495	双子葉	バラ	ボケ		○					
496	双子葉	バラ	ビワ							産業
497	双子葉	バラ	シロバナヤマブキ		○					
498	双子葉	バラ	ヤエヤマブキ		○					
499	双子葉	バラ	ハイキジムシロ		○					
500	双子葉	バラ	コバナキジムシロ		○					
501	双子葉	バラ	オオヘビイチゴ		○					
502	双子葉	バラ	オキジムシロ		○					
503	双子葉	バラ	マメザクラ		○					
504	双子葉	バラ	ニワウメ		○					
505	双子葉	バラ	サトザクラ							
506	双子葉	バラ	ウメ		○					
507	双子葉	バラ	モモ		○?					
508	双子葉	バラ	スモモ		○					
509	双子葉	バラ	イトザクラ		○					
510	双子葉	バラ	オオシマザクラ		○					
511	双子葉	バラ	コヒガンザクラ		○					
512	双子葉	バラ	ソメイヨシノ		○					エドヒガン×オオシマザクラ
513	双子葉	バラ	カズサザクラ							ヤマザクラ×オオシマザクラ
514	双子葉	バラ	タチバナモドキ		○					総合
515	双子葉	バラ	トキワサンザシ		○					総合
516	双子葉	バラ	カザンデマリ		○					総合
517	双子葉	バラ	ナシ		○					
518	双子葉	バラ	アイナシ							マメナシ×ナシ
519	双子葉	バラ	シャリンバイ		○					在来個体群もある
520	双子葉	バラ	ナニワイバラ		○					
521	双子葉	バラ	アズマイバラ		○					逸出個体群もある
522	双子葉	バラ	ハマナス		○					
523	双子葉	バラ	セイヨウヤブイチゴ		○					
524	双子葉	バラ	セイヨウヤブイチゴ							
525	双子葉	バラ	カジイチゴ		○					在来個体群らしいものもある
526	双子葉	バラ	ナガボノアカワレモコウ		○					
527	双子葉	バラ	ヒメカジイチゴ							ニガイチゴ×カジイチゴ
528	双子葉	バラ	オランダワレモコウ							
529	双子葉	バラ	ニワナカマド		○					
530	双子葉	バラ	コデマリ		○					
531	双子葉	バラ	ユキヤナギ		○?					
532	双子葉	グミ	ナワシログミ		○					在来個体群もある
533	双子葉	クロウメモドキ	ナツメ		○					
534	双子葉	ニレ	ハルニレ		○					
535	双子葉	ニレ	ケヤキ		○					在来個体群もある
536	双子葉	アサ	アサ		○					
537	双子葉	クワ	ツルコウゾ		○					
538	双子葉	クワ	カジノキ		○?					RDBあいち2020 p.306参照
539	双子葉	クワ	コウゾ		○					
540	双子葉	クワ	イチジク							
541	双子葉	クワ	オオイトバ(移入型)		○					
542	双子葉	クワ	アコウ		○					
543	双子葉	クワ	ハリグワ		○					
544	双子葉	クワ	マグワ		○					
545	双子葉	クワ	ロソウ							
546	双子葉	クワ	ケグワ		○					
547	双子葉	クワ	アイノコグワ							マグワ×ヤマグワ
548	双子葉	イラクサ	ラセイタソウ		○					
549	双子葉	イラクサ	ナンバンカラムシ		○					
550	双子葉	イラクサ	ハドノキ		○					
551	双子葉	イラクサ	ナンカラムシ							
552	双子葉	イラクサ	カベイラクサ		○					
553	双子葉	イラクサ	コゴメズ		○					重点
554	双子葉	イラクサ	コケメズ		○					在来個体群もある
555	双子葉	ブナ	スダジイ		○					在来個体群もある
556	双子葉	ブナ	ツブラジイ×スダジイ							
557	双子葉	ブナ	マテバシイ		○					
558	双子葉	ブナ	シリブカガシ		○					在来個体群もある
559	双子葉	ブナ	クスギ		○					
560	双子葉	ブナ	ナラガシワ		○					在来個体群もある
561	双子葉	ブナ	アオナラガシワ		○					在来個体群もある
562	双子葉	ブナ	カシワ		○					
563	双子葉	ブナ	イチイガシ		○					
564	双子葉	ブナ	シラカシ		○					逸出個体群もある
565	双子葉	ブナ	カシワコナラ		○					
566	双子葉	ブナ	アオナラガシワ×コナラ		○					在来個体群もある
567	双子葉	クルミ	シナサワグルミ		○					
568	双子葉	カバノキ	ヤシヤブシ		○					
569	双子葉	カバノキ	ケヤマハンノキ		○					逸出個体群もある
570	双子葉	カバノキ	タニガワハンノキ		○					
571	双子葉	カバノキ	ヒメヤシヤブシ		○					
572	双子葉	カバノキ	オオバヤシヤブシ		○					
573	双子葉	ウリ	トウガン							
574	双子葉	ウリ	スイカ							
575	双子葉	ウリ	マクワウリ							
576	双子葉	ウリ	キュウリ							
577	双子葉	ウリ	ハヤトウリ		○					
578	双子葉	ウリ	アレチウリ		○					緊急 ○
579	双子葉	シュウカイドウ	シュウカイドウ		○					
580	双子葉	ニシキギ	ニシキギ		○					逸出個体群もある
581	双子葉	ニシキギ	マサキ		○					逸出個体群もある
582	双子葉	カタバミ	イモカタバミ		○					
583	双子葉	カタバミ	シロバナイモカタバミ							
584	双子葉	カタバミ	ハナカタバミ		○					
585	双子葉	カタバミ	ベニカタバミ		○					
586	双子葉	カタバミ	ムラサキカタバミ		○					
587	双子葉	カタバミ	オウタチカタバミ		○					
588	双子葉	カタバミ	ミヤマカタバミ		○					逸出個体群もある
589	双子葉	カタバミ	オオキバナカタバミ		○					総合
590	双子葉	カタバミ	フヨウカタバミ		○					
591	双子葉	カタバミ	モンカタバミ		○					
592	双子葉	カタバミ	インカタバミ		○					
593	双子葉	ホルトノキ	ホルトノキ		○					在来個体群もある
594	双子葉	トウダイグサ	オオバベニガシワ		○					
595	双子葉	トウダイグサ	シマニシキソウ		○					
596	双子葉	トウダイグサ	アレチニシキソウ		○					
597	双子葉	トウダイグサ	ショウジョウソウ		○					

表-1 外来種リスト(暫定版)【植物】(その4)

No.	大分類群	科名	和名	移入の区分		他指定区分				備考
				国外	国内	県条例公表種	特定外来生物	外来種リスト	日本ワースト100	
631	双子葉	アオイ	キンゴジカ	○						
632	双子葉	アオイ	アメリカキンゴジカ	○						
633	双子葉	アオイ	アマミキンゴジカ	○						
634	双子葉	アオイ	ボダイジュ	○						
635	双子葉	ジンチョウゲ	ジンチョウゲ	○						
636	双子葉	ジンチョウゲ	キガンビ	○	○					在来個体群もある
637	双子葉	ジンチョウゲ	ミツマタ	○						
638	双子葉	フウチョウソウ	ヒメフウチョウソウ	○						
639	双子葉	フウチョウソウ	アフリカフウチョウソウ	○						
640	双子葉	フウチョウソウ	セイヨウフウチョウソウ	○						
641	双子葉	アブラナ	アレチナズナ	○						
642	双子葉	アブラナ	シロイヌナズナ	○						
643	双子葉	アブラナ	ハルザキヤマガラシ	○			総合	○		
644	双子葉	アブラナ	シロガラシ	○						
645	双子葉	アブラナ	セイヨウカラシナ	○			総合			
646	双子葉	アブラナ	セイヨウアブラナ	○						
647	双子葉	アブラナ	クロガラシ	○						
648	双子葉	アブラナ	ハリゲナタネ	○						
649	双子葉	アブラナ	ルペラナズナ	○						
650	双子葉	アブラナ	コタネツケバナ	○						
651	双子葉	アブラナ	ミチタネツケバナ	○						
652	双子葉	アブラナ	ニワサキタネツケバナ	○						
653	双子葉	アブラナ	クジラグサ	○						
654	双子葉	アブラナ	キバナスズシロ	○						
655	双子葉	アブラナ	オハツキガラシ	○						
656	双子葉	アブラナ	エゾスズシロ	○						
657	双子葉	アブラナ	ヒメムラサキハナナ	○						
658	双子葉	アブラナ	ダイコクマメゲンバイナズナ	○						
659	双子葉	アブラナ	キレハマメゲンバイナズナ	○						
660	双子葉	アブラナ	カラクサナズナ	○						
661	双子葉	アブラナ	アコウゲンバイ	○						
662	双子葉	アブラナ	マメゲンバイナズナ	○						
663	双子葉	アブラナ	ニワナズナ	○						
664	双子葉	アブラナ	ゴウダソウ	○						
665	双子葉	アブラナ	コバノオランダガラシ	○						
666	双子葉	アブラナ	オランダガラシ	○				重点		
667	双子葉	アブラナ	ムラサキオランダガラシ	○						
668	双子葉	アブラナ	ショカツサイ	○						
669	双子葉	アブラナ	セイヨウノダイコン	○						
670	双子葉	アブラナ	ダイコン	○						
671	双子葉	アブラナ	ミヤガラシ	○						
672	双子葉	アブラナ	キレハイスガラシ	○						
673	双子葉	アブラナ	ノハラガラシ	○						
674	双子葉	アブラナ	ケノハラガラシ	○						
675	双子葉	アブラナ	ハタザオガラシ	○						
676	双子葉	アブラナ	ホソエガラシ	○						
677	双子葉	アブラナ	ケカキネガラシ	○						
678	双子葉	アブラナ	ハマカキネガラシ	○						
679	双子葉	アブラナ	イヌカキネガラシ	○						
680	双子葉	アブラナ	ゲンバイナズナ	○						
681	双子葉	タデ	シヤクチリソバ	○				総合		
682	双子葉	タデ	ソバ	○						
683	双子葉	タデ	ソバカズラ	○						
684	双子葉	タデ	ツルドクダミ	○				総合		
685	双子葉	タデ	オオイトドリ	○	○					
686	双子葉	タデ	ワイヤーブランツ	○						
687	双子葉	タデ	ヒメツルソバ	○				総合		
688	双子葉	タデ	オオケタデ	○						
689	双子葉	タデ	タデアイ	○						
690	双子葉	タデ	ハイミチヤナギ	○						
691	双子葉	タデ	ヤンバルミチヤナギ	○	○					
692	双子葉	タデ	ホザキニワヤナギ	○						
693	双子葉	タデ	ヒメスイバ	○				総合		
694	双子葉	タデ	カギミギシギシ	○						
695	双子葉	タデ	アレチギシギシ	○						
696	双子葉	タデ	ナガバギシギシ	○				総合		
697	双子葉	タデ	コギシギシ	○	○					在来個体群もある
698	双子葉	タデ	エゾノギシギシ	○				総合		
699	双子葉	タデ	アレチエゾノギシギシ	○						
700	双子葉	タデ	トガマダイオウ	○						

※表中の灰色枠は本調査において生息生育情報等を収集・整理し、1種1頁の解説文を作成または加筆修正した種を示す。

注1: 科の配列は原則としてAPG分類系(APG III)に従った。科内の種の配列は学名のアルファベット順とした。また、動物で表記されている目名と属名は省略し、それに代えてAPG分類系による大分類群を併記した。
 注2: APG分類系大分類群 小葉:小葉植物、シダ:大葉シダ植物、裸子:裸子植物、原始被子:原始被子植物、単子葉:単子葉類、双子葉:真正双子葉類。
 注3: 「外来種リスト」は「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」を示す(予防:定着予防外来種、緊急:緊急対策外来種、重点:重点対策外来種、総合:その他の総合対策外来種、産業:産業管理外来種)。
 注4: 移入の区分(移入元) 国外、国外のどちらにも○が付されていないものは、移入種間、または移入種と在来種との間に形成された自然雑種である。あるいは移入個体群が国内由来か国外由来か不明なものである。

表-1 外来種リスト(暫定版)【植物】(その5)

No.	大分類群	科名	和名	移入の区分		他指定区分				備考
				国外	国内	県条例公表種	特定外来生物	外来種リスト	日本ワースト100	
841	双子葉	ナデシコ	サクラマンテマ	○						
842	双子葉	ナデシコ	シラタマソウ	○						
843	双子葉	ナデシコ	ノハラツメクサ	○						
844	双子葉	ナデシコ	ウシオハナツメクサ	○						
845	双子葉	ナデシコ	ウスベニツメクサ	○						
846	双子葉	ナデシコ	カラフトホソバハコベ	○						
847	双子葉	ナデシコ	ナガバツメクサ							
848	双子葉	ナデシコ	コハコベ	○						
849	双子葉	ナデシコ	イヌコハコベ	○						
850	双子葉	ナデシコ	エゾオヤヤマハコベ		○					
851	双子葉	ナデシコ	ノミノコブスマ	○						
852	双子葉	ヒユ	ムラサキイノコヅチ	○						
853	双子葉	ヒユ	ホソバツルノゲイトウ	○						
854	双子葉	ヒユ	ツルノゲイトウ	○						
855	双子葉	ヒユ	ヒメシロビユ	○						
856	双子葉	ヒユ	ヒメアオゲイトウ	○						
857	双子葉	ヒユ	イヌビユ							
858	双子葉	ヒユ	ハイビユ	○						
859	双子葉	ヒユ	ホソアオゲイトウ	○						
860	双子葉	ヒユ	オオホナガアオゲイトウ	○						
861	双子葉	ヒユ	ホナガアオゲイトウ	○						
862	双子葉	ヒユ	アオゲイトウ	○						
863	双子葉	ヒユ	ハリビユ	○						
864	双子葉	ヒユ	ヒユ	○						
865	双子葉	ヒユ	ホナガイヌビユ	○						
866	双子葉	ヒユ	ホコガタアカザ	○				総合		
867	双子葉	ヒユ	ホウキギ							
868	双子葉	ヒユ	ノゲイトウ	○						
869	双子葉	ヒユ	ケイトウ							
870	双子葉	ヒユ	ヤリゲイトウ	○						
871	双子葉	ヒユ	アカザ	○						
872	双子葉	ヒユ	コアカザ	○						
873	双子葉	ヒユ	ウラジロアカザ	○						
874	双子葉	ヒユ	ヒメハマアカザ							
875	双子葉	ヒユ	ミナトアカザ	○						
876	双子葉	ヒユ	ホソバアカザ		○					逸出個体群もある
877	双子葉	ヒユ	ハヤザキアカザ	○						
878	双子葉	ヒユ	アリタソウ	○						
879	双子葉	ヒユ	ケアリタソウ	○						
880	双子葉	ヒユ	ゴウシュウアリタソウ	○						
881	双子葉	ヒユ	センニチノゲイトウ	○						
882	双子葉	ヒユ	アメリカセンニチコウ	○						
883	双子葉	ヒユ	ハリヒジキ	○						
884	双子葉	ヒユ	マツナ	○						ハマグリの稚貝の輸入と共に移入した個体群
885	双子葉	ハマミズナ	ハクヤギク	○				重点		
886	双子葉	ハマミズナ	レイコウ	○						
887	双子葉	ハマミズナ	マツバギク	○						
888	双子葉	ハマミズナ	ハナヅルソウ	○						
889	双子葉	ハマミズナ	スベリヒユモドキ	○						
890	双子葉	ヤマゴボウ	ヤマゴボウ	○						
891	双子葉	ヤマゴボウ	ヨウシュヤマゴボウ	○						
892	双子葉	ヤマゴボウ	ジュズサンゴ					総合		
893	双子葉	オシロイバナ	タチナハカノソウ	○						
894	双子葉	オシロイバナ	オシロイバナ	○						
895	双子葉	ザクロソウ	クルマバザクロソウ	○						
896	双子葉	ザクロソウ	タチクルマバザクロソウ							
897	双子葉	ツルムラサキ	ツルムラサキ	○				総合		
898	双子葉	ハゼラン	ハゼラン	○						
899	双子葉	スベリヒユ	ヒメマツバボタン	○				重点		
900	双子葉	スベリヒユ	ハナスベリヒユ	○						
901	双子葉	サボテン	ウチワサボテン					○	重点	
902	双子葉	ミズキ	サンシュユ							
903	双子葉	アジサイ	アジサイ		○					
904	双子葉	アジサイ	ガクアジサイ		○					
905	双子葉	アジサイ	ガクアジサイ×ヤマアジサイ							
906	双子葉	ツリフネソウ	キツリフネ		○					逸出個体群もある
907	双子葉	ツリフネソウ	アフリカホウセンカ		○			重点		
908	双子葉	ハナシノブ	シバザクラ		○					
909	双子葉	モッコク	ハマヒサカキ		○					逸出個体群もある
910	双子葉	モッコク	モッコク		○					在来個体群があるかもしれない

※表中の灰色枠は本調査において生息生育情報等を収集・整理し、1種1頁の解説文を作成または加筆修正した種を示す。

注1: 科の配列は原則としてAPG分類系(APG III)に従った。科内の種の配列は学名のアルファベット順とした。また、動物で表記されている目名と属名は省略し、それに代えてAPG分類系による大分類群を併記した。
 注2: APG分類系大分類群 小葉:小葉植物、シダ:大葉シダ植物、裸子:裸子植物、原始被子:原始被子植物、単子葉:単子葉類、双子葉:真正双子葉類。
 注3: 「外来種リスト」は「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」を示す(予防:定着予防外来種、緊急:緊急対策外来種、重点:重点対策外来種、総合:その他の総合対策外来種、産業:産業管理外来種)。
 注4: 移入の区分(移入元) 国外、国外のどちらにも○が付されていないものは、移入種間、または移入種と在来種の間に形成された自然雑種である。あるいは移入個体群が国内由来か国外由来か不明なものである。

表-1 外来種リスト(暫定版)【植物】(その6)

No.	大分類群	科名	和名	移入の区分		他指定区分				備考
				国外	国内	県条例公表種	特定外来生物	外来種リスト	日本ワースト100	
1051	双子葉	アゼナ	ハナウリクサ	○						
1052	双子葉	ゴマ	ゴマ	○						
1053	双子葉	キツネノマゴ	ナガバハアザミ	○						
1054	双子葉	キツネノマゴ	ヤナギハルイラソウ	○				総合		
1055	双子葉	キツネノマゴ	イセハナビ		○					
1056	双子葉	ノウゼンカズラ	ノウゼンカズラ	○						
1057	双子葉	ノウゼンカズラ	アメリカノウゼンカズラ	○						
1058	双子葉	ノウゼンカズラ	アメリカキササゲ	○						
1059	双子葉	ノウゼンカズラ	トウキササゲ	○						
1060	双子葉	ノウゼンカズラ	キササゲ	○						
1061	双子葉	ノウゼンカズラ	ハナキササゲ	○						
1062	双子葉	タヌキモ	ムシトリスミレ		○					
1063	双子葉	タヌキモ	オオバナイトタヌキモ	○				重点		
1064	双子葉	タヌキモ	アメリカトリミミカキグサ	○						
1065	双子葉	タヌキモ	エフクレタヌキモ	○				重点		
1066	双子葉	クマツヅラ	シチヘンゲ	○				重点	○	ランタナ
1067	双子葉	クマツヅラ	コバノランタナ	○						
1068	双子葉	クマツヅラ	ヒメウダレソウ	○				重点		
1069	双子葉	クマツヅラ	ヤナギハナガサ	○				総合		
1070	双子葉	クマツヅラ	アレチハナガサ	○				総合		
1071	双子葉	クマツヅラ	シュクコンバーベナ	○						
1072	双子葉	クマツヅラ	ヒメビジョザクラ	○						
1073	双子葉	クマツヅラ	ヒメアレチハナガサ	○				総合		
1074	双子葉	クマツヅラ	ダキバアレチハナガサ	○				総合		ヤナギハナガサ×アレチハナガサ
1075	双子葉	シソ	セイヨウジュウニヒトエ	○						
1076	双子葉	シソ	コムラサキ		○					在来個体群もある
1077	双子葉	シソ	ダンギク		○					
1078	双子葉	シソ	ボタンクサギ	○						
1079	双子葉	シソ	ハナトウバナ	○						
1080	双子葉	シソ	セイヨウナギナタコウジュ		○					
1081	双子葉	シソ	ニシキコウジュ	○						
1082	双子葉	シソ	キバナドリコソウ	○						
1083	双子葉	シソ	キレハヒメオドリコソウ	○						
1084	双子葉	シソ	ヒメオドリコソウ	○						
1085	双子葉	シソ	シロバナヒメオドリコソウ	○						
1086	双子葉	シソ	ニガハッカ	○						
1087	双子葉	シソ	コウスイハッカ	○						
1088	双子葉	シソ	ヨウシュハッカ	○						
1089	双子葉	シソ	ナガバハッカ	○						
1090	双子葉	シソ	メグサハッカ	○						
1091	双子葉	シソ	ミドリハッカ	○						
1092	双子葉	シソ	オランダ・ミドリハッカ中間型		○					
1093	双子葉	シソ	オランダハッカ	○						
1094	双子葉	シソ	マルバハッカ	○						
1095	双子葉	シソ	アメリカハッカ	○						
1096	双子葉	シソ	コショウハッカ	○						
1097	双子葉	シソ	マルバハッカ×コショウハッカ							
1098	双子葉	シソ	ナガバハッカ × ?							
1099	双子葉	シソ	アメリカ・コショウハッカ中間型							
1100	双子葉	シソ	エンペラーミント	○						
1101	双子葉	シソ	イヌハッカ	○						
1102	双子葉	シソ	ハナハッカ	○						
1103	双子葉	シソ	エゴマ							
1104	双子葉	シソ	シソ							
1105	双子葉	シソ	チリメンジソ							
1106	双子葉	シソ	アカジソ							
1107	双子葉	シソ	アオジソ							
1108	双子葉	シソ	トラノオジソ		○					
1109	双子葉	シソ	ハナトラノオ	○						
1110	双子葉	シソ	セイヨウウツボグサ	○						
1111	双子葉	シソ	ペニバナサルビア	○						
1112	双子葉	シソ	ホワイトテキサスセージ	○						
1113	双子葉	シソ	コバノタツナミ		○					逸出個体群もある
1114	双子葉	シソ	ブラジリアンセージ							
1115	双子葉	シソ	ソライロサルビア							
1116	双子葉	シソ	シロバナコバノタツナミ		○					在来個体群もある
1117	双子葉	シソ	エゾナミキ		○					
1118	双子葉	シソ	ヤブチョロギ	○						
1119	双子葉	シソ	ヨウシュユキジャコウソウ	○						
1120	双子葉	シソ	カリガネソウ		○					逸出個体群もある
1121	双子葉	シソ	ニンジンボク	○						
1122	双子葉	オオバコ	ハビコリハコベ	○		○	重点			
1123	双子葉	キリ	キリ	○						
1124	双子葉	ハマウツボ	ヒサウチソウ	○						
1125	双子葉	ハマウツボ	ヤセウツボ	○						
1126	双子葉	ハマウツボ	キバナヤセウツボ	○						
1127	双子葉	ハマウツボ	セイヨウヒキヨモギ	○						
1128	双子葉	モチノキ	セイヨウヒイラギ	○						
1129	双子葉	モチノキ	タラヨウ	○						
1130	双子葉	モチノキ	クログネモチ		○					在来個体群もある
1131	双子葉	モチノキ	マルバタラヨウ	○						モチノキ×タラヨウ
1132	双子葉	キキョウ	トウシャジン	○						
1133	双子葉	キキョウ	ホタルブクロ白花型		○					
1134	双子葉	キキョウ	シロバナホタルブクロ							
1135	双子葉	キキョウ	イソトマ							
1136	双子葉	キキョウ	ペニバナサウギキョウ	○						
1137	双子葉	キキョウ	ロベリアソウ	○						
1138	双子葉	キキョウ	ヒナキキョウソウ	○						
1139	双子葉	キキョウ	キキョウソウ	○						
1140	双子葉	キキョウ	ヒメダンギキョウ							ヒナキキョウソウ
1141	双子葉	キキョウ	ダンダンギキョウ							キキョウソウ
1142	双子葉	ミツガシワ	ミツガシワ		○					在来個体群は絶滅
1143	双子葉	ミツガシワ	アサザ		○					在来個体群もある
1144	双子葉	キク	セイヨウノコギリソウ	○						
1145	双子葉	キク	アカバナセイヨウノコギリソウ							
1146	双子葉	キク	マルバフジバカマ	○			総合			
1147	双子葉	キク	カッコウアザミ				総合			
1148	双子葉	キク	ブタクサ	○						
1149	双子葉	キク	ブタクサモドキ	○						
1150	双子葉	キク	オオブタクサ	○		重点	○			
1151	双子葉	キク	マルバクワモドキ	○		重点				
1152	双子葉	キク	キノメカミツレ	○						
1153	双子葉	キク	カミツレモドキ	○						
1154	双子葉	キク	ゴボウ	○						
1155	双子葉	キク	ワタゲツルハナグルマ	○			総合			
1156	双子葉	キク	モクシュンギク	○						
1157	双子葉	キク	クソニンジン	○						
1158	双子葉	キク	カワラニンジン	○						
1159	双子葉	キク	ニシヨモギ		○					
1160	双子葉	キク	ヨモギナ	○						
1161	双子葉	キク	ヒメヨモギ		○					在来個体群もある
1162	双子葉	キク	ヤブヨモギ							
1163	双子葉	キク	イワヨモギ							
1164	双子葉	キク	シオン		○					
1165	双子葉	キク	キダチコンギク	○						
1166	双子葉	キク	ホウキギク	○						
1167	双子葉	キク	オオホウキギク	○						
1168	双子葉	キク	ヒロハホウキギク	○						
1169	双子葉	キク	キンバイタウコギ	○						
1170	双子葉	キク	コバノセンダングサ	○						
1171	双子葉	キク	アメリカセンダングサ	○			総合			
1172	双子葉	キク	オオアメリカセンダングサ							
1173	双子葉	キク	キクザキセンダングサ	○						
1174	双子葉	キク	コセンダングサ	○						
1175	双子葉	キク	コシロノセンダングサ	○						
1176	双子葉	キク	オオバナノセンダングサ	○			総合			
1177	双子葉	キク	タチアユキセンダングサ	○			総合	○		
1178	双子葉	キク	ハイアユキセンダングサ	○			総合			
1179	双子葉	キク	オワリセンダングサ	○						
1180	双子葉	キク	アメリカギク	○						
1181	双子葉	キク	ヒメキンセンカ	○						
1182	双子葉	キク	ボンボンアザミ	○		○				
1183	双子葉	キク	シロバナヒレアザミ	○						
1184	双子葉	キク	ヒメヒレアザミ	○						
1185	双子葉	キク	イヌヒレアザミ	○						
1186	双子葉	キク	ペニバナ	○						
1187	双子葉	キク	ヤグルマギク	○						
1188	双子葉	キク	ローマカミツレ	○						
1189	双子葉	キク	エダウチニガナ	○						
1190	双子葉	キク	ククニギク		○					県内のものは移入
1191	双子葉	キク	ハナイソギク							イソギク×イエキク(栽培種)
1192	双子葉	キク	ククニガナ	○						
1193	双子葉	キク	モリアザミ		○					在来個体群は絶滅
1194	双子葉	キク	タカアザミ		○					
1195	双子葉	キク	シロバナタカアザミ		○					逸出個体群もある
1196	双子葉	キク	ハナアザミ							
1197	双子葉	キク	アメリカオニアザミ	○				総合		
1198	双子葉	キク	アレチノギク	○						
1199	双子葉	キク	ヒメムカシヨモギ	○						
1200	双子葉	キク	イズハハコ							
1201	双子葉	キク	ケナシヒメムカシヨモギ	○				総合		
1202	双子葉	キク	オオアレチノギク	○					○	
1203	双子葉	キク	ヒメムカシヨモギ×ケナシヒメムカシヨモギ							
1204	双子葉	キク	ホソバハルシャギク	○						
1205	双子葉	キク	オオキンケイギク	○				○	緊急	○
1206	双子葉	キク	ハルシャギク	○				総合		
1207	双子葉	キク	コスモス	○						
1208	双子葉	キク	キバナコスモス	○						
1209	双子葉	キク	マメカミツレ	○						
1210	双子葉	キク	ペニバナボロギク	○						
1211	双子葉	キク	セイヨウニガナ	○						
1212	双子葉	キク	アレチニガナ	○						
1213	双子葉	キク	ヤネタビラコ	○						
1214	双子葉	キク	アメリカカササゴ	○						
1215	双子葉	キク	アイノカタカサゴ							アメリカカササゴ×カタカサゴ
1216	双子葉	キク	ダンドボロギク	○						
1217	双子葉	キク	ヒメジオオン	○				総合	○	
1218	双子葉	キク	ボウスヒメジオオン	○						
1219	双子葉	キク	ペラペラヨメナ	○				総合		
1220	双子葉	キク	ハルジオン	○					○	
1221	双子葉	キク	ボウスハルジオン							
1222	双子葉	キク	ヤナギハメジオオン	○						

表-1 外来種リスト(暫定版)【植物】(その7)

No.	大分類群	科名	和名	移入の区分		他指定区分					備考
				国外	国内	県条例公表種	特定外来生物	外来種リスト	日本ワースト100	世界ワースト100	
1261	双子葉	キク	ハナガサギク	○							
1262	双子葉	キク	ナルトサワギク	○			○	緊急			
1263	双子葉	キク	ノボロギク	○							
1264	双子葉	キク	オオアザミ	○							
1265	双子葉	キク	セイタカアワダチソウ	○				重点	○		
1266	双子葉	キク	カナダアキノキリンソウ	○							
1267	双子葉	キク	オオアワダチソウ	○				重点	○		
1268	双子葉	キク	イガトキンソウ								
1269	双子葉	キク	シマトキンソウ	○							
1270	双子葉	キク	メリケントキンソウ	○							
1271	双子葉	キク	コケトキンソウ	○							コケカミツレ
1272	双子葉	キク	オニノゲシ	○							
1273	双子葉	キク	アイノゲシ								
1274	双子葉	キク	タイワンハチジョウナ								
1275	双子葉	キク	フシザキソウ	○							
1276	双子葉	キク	シオザキソウ	○							
1277	双子葉	キク	コウオウソウ	○							フレンチマリーゴールド
1278	双子葉	キク	ヨモギギク	○							
1279	双子葉	キク	アカミタンポポ	○				重点	○		
1280	双子葉	キク	セイヨウタンポポ	○				重点	○		ほとんどが雑種性
1281	双子葉	キク	エゾタンポポ		○						逸出個体群もある
1282	双子葉	キク	アイノアカミタンポポ					重点			
1283	双子葉	キク	アイノセイヨウタンポポ					重点			
1284	双子葉	キク	カラクサシュンギク	○							
1285	双子葉	キク	バラモンジン	○							
1286	双子葉	キク	キバナムギナデシコ	○							
1287	双子葉	キク	イヌカミツレ	○							
1288	双子葉	キク	ハネミギク	○							
1289	双子葉	キク	オオオナモミ	○				総合	○		
1290	双子葉	キク	イガオナモミ	○							
1291	双子葉	キク	アイオナモミ								オオオナモミ×オナモミ
1292	双子葉	キク	イガオナモミ×オオオナモミ	○							
1293	双子葉	キク	オオオナモミ×イガオナモミ								オオオナモミ×イガオナモミ
1294	双子葉	キク	ムギワラギク	○							
1295	双子葉	キク	ヒヤクニチソウ	○							
1296	双子葉	ガマズミ	ハクサンポク		○						在来個体群もある
1297	双子葉	ガマズミ	サンゴジュ		○						
1298	双子葉	ガマズミ	ミヤマハクサンポク								
1299	双子葉	スイカズラ	ウスベニカノコソウ	○							
1300	双子葉	スイカズラ	オトコオミナエシ	○							
1301	双子葉	スイカズラ	タカネマツムシソウ		○	○					真の高山性のタカネマツムシソウではない
1302	双子葉	スイカズラ	ノヂシヤ	○							
1303	双子葉	スイカズラ	ハコネウツギ		○						
1304	双子葉	スイカズラ	ニシキウツギ		○						
1305	双子葉	スイカズラ	ペニバナニシキウツギ		○						
1306	双子葉	スイカズラ	タニウツギ		○						逸出個体群もある
1307	双子葉	トベラ	トベラ		○						逸出個体群もある
1308	双子葉	ウコギ	ヒメウコギ	○							
1309	双子葉	ウコギ	セイヨウキツタ	○							
1310	双子葉	ウコギ	ウチワゼニクサ	○				重点			タテバチドメグサ
1311	双子葉	ウコギ	カミヤツデ	○				総合			
1312	双子葉	セリ	アシタバ		○						逸出個体群もある
1313	双子葉	セリ	ノハラジャク	○							
1314	双子葉	セリ	セロリ								
1315	双子葉	セリ	トクニンジン	○				総合			
1316	双子葉	セリ	コエンドロ	○							
1317	双子葉	セリ	マツバゼリ	○							
1318	双子葉	セリ	ノラニンジン	○							
1319	双子葉	セリ	ウイキョウ	○							
1320	双子葉	セリ	ハナカザリゼリ	○							
合計(種数等)		150科	1320種	929	199	13	12	164	26	5	

※表中の灰色枠は本調査において生息生育情報等を収集・整理し、1種1頁の解説文を作成または加筆修正した種を示す。

注1: 科の配列は原則としてAPG分類系(APG III)に従った。科内の種の配列は学名のアルファベット順とした。また、動物で表記されている目名と属名は省略し、それに代えてAPG分類系による大分類群を併記した。
 注2: APG分類系大分類群 小葉:小葉植物、シダ:大葉シダ植物、裸子:裸子植物、原始被子:原始被子植物、単子葉:単子葉類、双子葉:真正双子葉類。
 注3: 「外来種リスト」は「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」を示す(予防:定着予防外来種、緊急:緊急対策外来種、重点:重点対策外来種、総合:その他の総合対策外来種、産業:産業管理外来種)。
 注4: 移入の区分(移入元) 国外、国外のどちらにも○が付されていないものは、移入種間、または移入種と在来種の間に形成された自然雑種である。あるいは移入個体群が国内由来か国外由来か不明なものである。

(2) 外来種リスト(暫定版)【動物】

表-2 外来種リスト(暫定版)【動物】(その1)

No.	分類群	目名	科名	属名	和名	学名	移入の区分		確認区画																	他指定区分					備考						
							国外	国内	1 北設楽	2 新城	3 豊川・蒲郡	4 豊橋	5 田原	6 西三河北東部	7 西三河西北部	8 岡崎	9 西三河西部	10 西三河南部	11 尾張東部	12 知多北部	13 知多南部	14 尾張北東部	15 尾張北西部	16 名古屋	17 海部	確認区画数	県条例公表種	特定外来生物	外来種リスト	日本ワースト100		世界ワースト100					
1	哺乳類	齧歯目	ネズミ	ハツカネズミ	ハツカネズミ(外来個体群)	<i>Mus musculus</i> Linnaeus, 1758	○																				*	*	2		重点	○	在来個体群は広く生息する(注3)				
2	哺乳類	齧歯目	ネズミ	クマネズミ	クマネズミ	<i>Rattus rattus</i> (Linnaeus, 1758)	○		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	17		緊急	○	都市部以外は在来個体群?(注4)			
3	哺乳類	齧歯目	ネズミ	クマネズミ	ドブネズミ	<i>Rattus norvegicus</i> (Berkenhout, 1769)	○		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	17		重点		都市部以外は在来個体群?(注4)			
4	哺乳類	齧歯目	ヌートリア	ヌートリア	ヌートリア	<i>Myocastor coypus</i> (Molina, 1810)	○			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	16	○	緊急	○				
5	哺乳類	ウサギ	ウサギ	アナウサギ	アナウサギ	<i>Oryctolagus cuniculus</i> (Linnaeus, 1758)	○																							2		重点	○				
6	哺乳類	鯨偶蹄目	イノシシ	イノシシ	交雑イノシシ(イノブタ)	<i>Sus scrofa</i> Linnaeus, 1758(原種名)	○			●																				3		重点	○	自然雑種			
7	哺乳類	食肉目	イタチ	イタチ	フェレット	<i>Mustela putorius furo</i> Linnaeus, 1758	○																								1		予防				
8	哺乳類	食肉目	イタチ	イタチ	シベリアイタチ	<i>Mustela sibirica</i> Pallas, 1773	○		●					●	●																5			○			
9	哺乳類	食肉目	アライグマ	キンカジュウ	キンカジュウ	<i>Potos flavus</i> (Schreber, 1774)	○																								1						
10	哺乳類	食肉目	アライグマ	アライグマ	アライグマ	<i>Procyon lotor</i> (Linnaeus, 1758)	○		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	17	○	緊急	○			
11	哺乳類	食肉目	イヌ	イヌ	ノイヌ	<i>Canis lupus familiaris</i> (Linnaeus, 1758)	○							●	●	●															5		重点				
12	哺乳類	食肉目	ネコ	ネコ	ノネコ	<i>Felis silvestris catus</i> (Linnaeus, 1758)	○																								4		緊急	○	○		
13	哺乳類	食肉目	ジャコウネコ	ハクビシン	ハクビシン	<i>Paguma larvata</i> (Smith, 1904)	○		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	14	○	重点				
14	哺乳類	食肉目	スカンク	スカンク	スカンク科の1種	Family Mephitidae sp.	○																								1						
15	哺乳類	食肉目	スカンク	スカンク	セジロスカンク	<i>Mephitis macroura</i> Lichtenstein, 1832	○																								1						
16	哺乳類	ハリネズミ目	ハリネズミ	ハリネズミ	アムールハリネズミ	<i>Erinaceus amurensis</i> (Schrenk, 1858)	○																								1	○	重点				
17	鳥類	フラミンゴ	フラミンゴ	フラミンゴ	チリーフラミンゴ	<i>Phoenicopterus chilensis</i> Molina, 1782	○																								1						
18	鳥類	フラミンゴ	フラミンゴ	フラミンゴ	フラミンゴ属の1種	<i>Phoenicopterus</i> sp.	○																									2					
19	鳥類	キジ	キジ	コジュケイ	コジュケイ	<i>Bambusicola thoracicus</i> (temminck, 1815)	○		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	17						
20	鳥類	キジ	キジ	コリンウズラ	コリンウズラ	<i>Colinus virginianus</i> Linnaeus, 1758	○																								1		総合				
21	鳥類	カモ	カモ	マガモ	アヒル(マガモ)	<i>Anas platyrhynchos</i> (Linnaeus, 1758)(原種名)	○																									8					
22	鳥類	カモ	カモ	バリケン	バリケン(ノバリケン)	<i>Cainina moschata</i> (Linnaeus, 1758)	○																									2					
23	鳥類	カモ	カモ	ハクチョウ	コブハクチョウ	<i>Cygnus olor</i> (Gmelin, 1789)	○																									4	○	総合			
24	鳥類	ハト	ハト	カワラハト	ドバト(カワラハト)	<i>Columba livia</i> Gmelin, 1789(原種名)	○		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	17			○		
25	鳥類	ハト	ハト	チョウショウバト	ウスユキバト	<i>Geopelia cuneata</i> (学名不詳)	○																									1					
26	鳥類	コウノトリ	コウノトリ	コウノトリ	コウノトリ(国内放鳥個体)	<i>Ciconia boyciana</i> Swinhoe, 1873	○	○																								5					
27	鳥類	ツル	ツル	カンムルツル	ホオジロカンムルツル	<i>Balearica regulorum</i> (Benett, 1834)	○																									3					
28	鳥類	チドリ	セイタカシギ	セイタカシギ	クロエリセイタカシギ	<i>Himantopus himantopus mexicanus</i> (Müller, 1776)	○																									1		総合			
29	鳥類	インコ	オウム	オカメインコ	オカメインコ	<i>Nymphicus hollandicus</i> Kerr, 1792	○																									2					
30	鳥類	インコ	インコ	セキセイインコ	セキセイインコ	<i>Melopsittacus undulatus</i> (Shaw, 1805)	○																									9					
31	鳥類	インコ	インコ	ダルメインコ	ワカケホンセイインコ	<i>Psittacula krameri manillensis</i> (Bechstein, 1800)	○																									4		総合			
32	鳥類	タカ	コンドル	ヒメコンドル	ヒメコンドル	<i>Cathartes aura</i> (Linnaeus, 1758)	○																									1					
33	鳥類	スズメ	チメドリ	ガビチョウ	ガビチョウ	<i>Garrulax canorus</i> (Linnaeus, 1758)	○		●																							3	○	重点	○		
34	鳥類	スズメ	チメドリ	ソウシチョウ	ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i> (Scopoli, 1786)	○		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	11	○	重点	○		
35	鳥類	スズメ	ムクドリ	Lamprotomis	ツキノワテリムクドリ	<i>Lamprotomis superbus</i> Rüppell, 1845	○																									1					
36	鳥類	スズメ	ハタオリドリ	キンランチョウ	キンランチョウ	<i>Euplectes franciscanus</i> (Isert, 1789)	○																									1					
37	鳥類	スズメ	アトリ	ヒワ	ゴシキヒワ	<i>Carduelis carduelis</i> (Linnaeus, 1758)	○																									1					
38	鳥類	スズメ	カエデチョウ	ベニスズメ	ベニスズメ	<i>Amandava amandava</i> (Linnaeus, 1758)	○																									8					
39	鳥類	スズメ	カエデチョウ	キンバラ	キンバラ	<i>Lonchura atricapilla</i> (Vieillot, 1807)	○																									2					
40	鳥類	スズメ	カエデチョウ	キンバラ	ギンバラ	<i>Lonchura malacca</i> (Linnaeus, 1766)	○																									2					
41	鳥類	スズメ	カエデチョウ	キンバラ	ブンチョウ	<i>Lonchura oryzivora</i> (Linnaeus, 1758)	○																									2					
42	爬虫類	カメ	イシガメ	イシガメ	クサガメ	<i>Mauremys reevesii</i> (Gray, 1831)	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	15				在来か移入か判別困難(注5)	
43	爬虫類	カメ	イシガメ	イシガメ	ニホンイシガメ×クサガメ																											6				自然雑種	
44	爬虫類	カメ	イシガメ	イシガメ	ハナガメ×ニホンイシガメ																											1	○			自然雑種	
45	爬虫類	カメ	イシガメ	イシガメ	ハナガメ×クサガメ																											1	○			自然雑種	
46	爬虫類	カメ	イシガメ	イシガメ	ハナガメ	<i>Mauremys sinensis</i> (Gray, 1834)	○																										1	○	予防		
47	爬虫類	カメ	イシガメ	イシガメ	ミナミイシガメ	<i>Mauremys mutica mutica</i> (Cantor, 1842)	○																										1		総合		
48	爬虫類	カメ	イシガメ	イシガメ	ヤエヤマイシガメ	<i>Mauremys mutica kami</i> Yasukawa, Ota et Iverson, 1996	○	○																									1		重点		
49	爬虫類	カメ	イシガメ	イシガメ	ギリヤイシガメ	<i>Mauremys rivulata</i>	○																										1				
50	爬虫類	カメ	カミツキガメ	カミツキガメ	カミツキガメ	<i>Chelydra serpentina</i> (Linnaeus, 1758)	○																										9	○	緊急	○	

注1: 表中の赤字は本調査での追加情報を示す。表中の青文字は平成28~30年度調査での追加情報を示す。●は該当する区画内で確認記録があったことを示す(絶滅を含む)。◎は該当する広域区画内で確認記録があったことを示す(絶滅を含む)。
 注2: 「外来種リスト」は「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」を示す(予防:定着予防外来種、緊急:緊急対策外来種、重点:重点対策外来種、総合:その他の総合対策外来種、産業:産業管理外来種)。
 注3: *はハツカネズミ外来個体群の確認記録があったとされる「名古屋港のコンテナ置き場」を示す(名古屋港区の「船見埠頭」、飛鳥村の「飛鳥埠頭」、弥富市の「鍋田埠頭」があるが、どのコンテナ置き場で捕獲された個体であるのか判然としないため、該当する全ての区画に*を付した)。
 注4: 確認区画はドブネズミ、クマネズミを区別せず表記した。
 注5: 移入個体が国内由来か国外由来かについては、現段階では明らかになっていない。
 注6: 垂種チュウコクスポンは「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」(外来種リスト)において「その他の総合対策外来種」に指定されている。
 注7: 移入の区分(移入元) 国外、国外のどちらにも○が付されていないものは、移入

